

優良実践校取組概要(令和3年度:小学校3校・中学校2校)

	学校名	校長名	児童 生徒数	取組内容等
	津山市立 河辺小学校	小池 尚 (こいけ ひさし)	301	<p><u>居場所とつながりのある学校づくり</u></p> <p>児童の「自己肯定感」が低く、自己表現が苦手であり、コミュニケーションが上手く取れないなどの課題があった。このため、校長のリーダーシップのもと「対話を取り入れてどの子どもにも居場所をつくる」という指導方針を明確にし、自己肯定感を高めるため外部から講師を招き非認知能力の研修を繰り返し実施して、全職員が学ぶなど徹底した取組を行った。また、書く力と表現する力を高めるため、1日1回以上、自分の考えを書く時間を確保し、友だちの意見や考えを聞き、自分の考えと比較する場を設定した。こうした活動を通して、子どもと子ども、子どもと先生とのつながりを広げていった。こうした取組の結果、子どもの居場所づくりが進み、目立った問題行動が減少するとともに、自己肯定感が高まり、学習意欲も向上し、県学力状況調査結果では県平均を上回った。</p>
	総社市立 新本小学校	森木 浩介 (もりき こうすけ)	72	<p><u>教職員の協働による学力向上の取組</u></p> <p>自分の考えを文章に書く力が弱く、自分の考えを進んで発表したり、他者と意見交換をしたりすることが苦手な児童が多いことが課題であり、自己肯定感を高める必要があった。このため、「子ども一人一人が活躍できる場の設定」「子どもをつなぎ、交流や深めるための対話」「思考が深まる発問」などの方向を示し、校内研修や教材研究をOJTを機能させながら取り組めるよう仕掛けた。また、自己有用感・自己肯定感を高めるため、クラス遊び・縦割り班活動・ピアサポート活動の充実を図った。さらに、地域と協働した活動である義民祭のオペレッタ練習や学校行事を児童の思いや願いを大切にしたい企画にし、自主性を育て、達成感を味わわせるよう仕掛けた。こうした取組の結果、学習意欲や表現力の向上、全国・県学力状況調査結果の上昇につながった。</p>
	久米南町立 弓削小学校	青木 由佳 (あおき ゆか)	56	<p><u>授業におけるICTの活用促進に向けた取組</u></p> <p>授業の中でICTを効果的に活用するために、教員のICT指導力向上を課題として捉えていた。このため、学習支援ソフトの活用やZOOM等を使用した遠隔授業実践など、授業でのICT活用場面の試行を繰り返し行うとともに、事務職員を中心に機器等の職員研修を実施したり、Wi-Fi環境の確認等を定期的に行うなどICT活用の環境づくりを行った。また、職員向け校長通信で授業活用好事例の紹介をしたり、校内研修において各学年のICT活用の取組を共有した。こうした取組の結果、ICTを活用した授業改善が学校全体で進み、低学年でも授業の様々な場面でICTの活用ができ、活用による発見や疑問により、児童の主体的な学びにつながっている。また、県学力状況調査においても着実に向上している。</p>

優良実践校取組概要(令和3年度:小学校3校・中学校2校)

	学校名	校長名	児童 生徒数	取組内容等
	備前市立 日生中学校	古山 一義 (こやま かずよし)	119	<p><u>地域と連携しながら、夢に向かってたくましく生きる生徒の育成(夢育の推進)</u></p> <p>生徒の学校行事を主体的に運営する意識や自己肯定感の向上に課題があった。 このため、地域の特産である牡蠣の養殖や海洋環境保全活動、SDGsを意識した商品開発など地域や企業と協働したキャリア学習を行うことで、生徒の社会的・職業的自立に向けて必要となる能力や態度を養ったり、学校祭を企画から運営まで生徒主体で取り組ませることで、協働して課題解決する力を身に付けさせたりしている。また、生徒会を中心に作成した「日生中学校行動スタンダード」をもとにPBISの取り組みを進め、生徒のよい面を褒めるようにした。 こうした取組の結果、「自分には良いところがある」と回答する生徒の割合が増加するなど、生徒の自己肯定感が向上した。また、話し合い活動を通じて身につけさせたい力のルーブリック評価表を作成し、これに照らして授業改善に取り組み、学力にも着実な向上が見られた。</p>
	赤磐市立 吉井中学校	青山 利明 (あおやま としあき)	62	<p><u>校内研究を基軸とした教育改善の取組</u></p> <p>生徒の主体的に学習に取り組む態度や家庭学習時間の不足に課題があったため、「主体的・対話的で深い学び」につながる指導の工夫で自律した学習者を育成する校内研究を展開した。 まずは、生徒の課題の根源的な原因をエビデンスベースで共有するための質問紙調査を実施し、「効果のある指導」を協議して焦点化するなど、学校組織としての取組を強化した。また、ほめ言葉のボイスシャワー等により自己肯定感を高められる場面を増やしたり、生徒同士が互いの考えを尊重し合えるような活動の工夫などを行ったりした。 こうした取組の結果、「良いところを認め合うことができる」「積極的に質問するようにしている」と回答する生徒の割合が増加するなど、「自己への信頼」や「学習意欲」が向上した。また、全国学力・学習状況調査においても結果の着実な向上につながっている。</p>